

ロマンとロマンス語

太田 強正

もう何年ぐらい前からであろうか、「男のロマン」とか、「ロマンを求めて…」などという表現がさかんに使われるようになった。この「ロマン」とはいったい何であろうか。この語にあたりそうなのは、フランス語の roman、ドイツ語の Romanであるが、共に「小説」の意で、上記の日本語の表現にぴったりしない。恐らくこの「ロマン」なる語は romaticism の略で、「空想」、「夢」ぐらいの意で用いられていると思われる。

さて、この roman も romanticism も romantic も、永遠の都 Roma を語源としていることを御存じであろうか。

ローマ帝国の公用語はラテン語であったが、書き言葉と話し言葉ではかなりの違いがあった。この話し言葉（「俗ラテン語」と言う）の方から、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語などが出た。そしてこの俗ラテン語で話すことを、ゲルマン人などの外国人の言

葉で話すことに対して、「ローマ風の言葉で (romanice) 話す」と言った。romanice は副詞であるが、名詞として言葉そのものを意味するようになった。（語形は、アクセントのかかる音節の次の音節の母音iが脱落して romance となった）

後にこの言葉で大衆向けの冒険譚や恋愛譚が書かれるようになり、そこから現代我々が言うロマンスの意味が生まれた。

ここまで話しをしてくると、上記のポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語などをなぜロマンス語と呼ぶのかは説明の必要がなくなったであろう。

「ロマン」とは誰が言い始めたかは知らないが、その不正確きわまりない用法にもかかわらず、日本人の語感に不思議にマッチし、誰もその意味をうるさく詮索しないで使っているように見える。言葉というものは所詮その様なものかも知れない。